

令和6年度第1回総合教育会議

日時：2024/10/01 09:12～10:36

場所：吉岡町文化センター 2階研修室

出席者：柴崎町長、山口教育長、小出職務代理、石田委員、八高委員、小林総務課長、米沢事務局長、永井教育総務室長、篠原学校教育室長、廣橋生涯学習室長、

同席者：高田副町長、一倉住民課長、黒岩住民環境室長、金子社会教育主事

作成者：教育総務室 岸

発言者	発言内容
小林総務課長	ただいまから令和6年第1回総合教育会議を開催します。なお本日進行いたします総務課長の小林と申します。よろしくお願いいたします。 それでは最初に柴崎町長から挨拶をお願いいたします。
柴崎町長	改めまして、おはようございます。 教育委員の皆様には、本日は総合教育会議にご出席いただきまして、誠にありがとうございます。本日朝8時半より町長室において新たに吉岡町教育委員となられた八高委員に私の方から辞令交付をさせていただきました。また先ほどの臨時教育委員会において、小出委員が新たに教育長職務代理者に指名された報告がなされたとのことでございます。吉岡町といたしましても、新たな体制となった委員の皆様と連携し、町教育行政の発展のために尽くして参りたいと思いますので、ご協力のほどよろしくお願い申し上げます。 さて本日は「地域課題と社会教育」というテーマで意見交換をお願いしたいと考えております。この後、説明がありますが、教育基本法第12条には、個人の要望や、社会の要請にこたえ、社会において行われる教育は、国及び地方公共団体によって奨励されなければならないと規定されているところであり、社会教育は余暇活動を豊かにするなど、各個人の様々な学習需要に対応する一方で、社会的・現代的課題と言われる社会からの多様な要請にも対応するものであるとされています。このことを踏まえ、本日は社会教育の可能性、そして町の地域課題の解決策について皆さんと一緒に確認していければと考えておりますので、皆様のご協力のほどよろしくお願いし、開会にあたっての挨拶とさせていただきます。どうぞよろしくお願いいたします。
小林総務課長	ありがとうございました。続きまして山口教育長から挨拶をお願いいたします。
山口教育長	今回のテーマ「地域課題と社会教育」ということで、地域課題の解決に教育がどう関わっていけるのかという視点で意見交換ができるのは、まさに画期的だと私は思っておりまして、これをきっかけにさらに町長部局と、教育委員会が連携を深めて町の様々な課題の解決に挑んでいけるといいなと思っていますところです。どうぞ今日は活発なご議論、まともになくてもいろいろな視点から議論をしていただけるとありがたいと私自身思っています。どう

	ぞよろしくお願いいたします。
小林総務課長	ありがとうございました。 それでは議事に入ります前に、本日町から傍聴ということで、高田副町長、一倉住民課長、黒岩住民環境室長が同席させていた だいておりますので、ご報告申し上げます。 それでは議事に入らせていただきます。議事の進行につきましては、吉岡町総合教育会議設置要綱第4条第1項に基づきまして、本会議の議長であります柴崎町長をお願いいたします。
柴崎町長	それでは私の方で議事を進めさせていただきたいと思います。皆様には議事の円滑な進行と率直な意見交換をお願いしたいと思 います。本日の議題は、社会教育の観点から地域課題を解決する ための取り組み等についてとなります。 ここからの進行を小林総務課長をお願いしたいと思いますので よろしくお願いいたします。
小林総務課長	はい。それでは、ここからの進行役を務めさせていただきます。どうぞよろしくお願いいたします。 早速、資料を使用しながら話を進めさせていただきます。はじめに、吉岡町の社会的課題についてお尋ねします。地域課題と一般的に呼ばれる部分に関しましては、お手元の資料に記載されているとおり、現代的課題として以下のような例が挙げられます。これは生涯学習審議会の答申書に示されている内容ですが、具体的には、生命、健康、人権、豊かな人間性、家・家庭、消費者問題、地域の連帯、まちづくり、高齢化社会、男女共同参画型社会、交通問題、科学技術、情報の活用、国際理解、知的所有権国際貢献・開発援助、人口、食料、環境、資源・エネルギー等です。 また、社会的課題については、広島県のホームページに掲載されている資料に基き、13のジャンルに分けられています。それは、①環境（ごみ問題）②教育（子育て・育児）③文化（伝統文化継承）④経済（所得格差・雇用）⑤倫理（公正取引）⑥人権（虐待・暴力）⑦労働（非正規雇用）⑧人口（高齢社会）⑨医療（介護問題）⑩地域（まちづくり）⑪資源（自然エネルギー）⑫安全（防災・減災）⑬食料（食の安全）といった内容です。 これらを踏まえまして、皆さんに吉岡町における地域社会や社会的課題として当てはまるものを各自1つずつ、もう少し具体的に挙げていただきます。考える時間がありますので、教育委員会事務局員から順番にお話していただけると幸いです。よろしくお願いいたします。 では、まずは廣橋生涯学習室長からお話しいただければと思います。よろしくお願いいたします。
廣橋生涯学習室長	私は吉岡町の社会的課題について、⑫安全（防災・減災）が重要であると考えています。現在、日本各地で地震や台風、大雨などの激甚化した自然災害が発生しています。幸いなことに、群馬県また吉岡町は今のところ災害が少ない地域です。だからこそ、

	災害を他事とせず、普段から皆で災害被害をできるだけ小さくする取り組みが必要だと考えます。 言われているとおり、災害の被害を少なくするためには、自助、共助、公助が大切だと考えます。公助は行政が行うものであることはもちろんですが、自分の身は自分で守る自助や、地域や身近な人と助け合う共助も大きな力になるのではないのでしょうか。 自助とは、平時からご自身で災害への備えをすることを指します。一方、共助に関しては、地域のつながりが普段から重要であると思います。現在、各自治会では防災訓練が行われていると聞いています。この訓練は、各自治会が自主的に企画し実施しているとのこと。令和5年度には、上野原自治会や小倉自治会で実施されています。他の自治会でも以前に施したと聞いております。また、令和6年度でも予定されている自治会があるそうです。 最近、生活様式の変化に伴い近所づきあいが希薄になりつつあるようですが、災害時の避難などには普段の近所づきあいが大いに役立つと考えます。普段から自分自身でできること、地域の方々と力を合わせてできることを考え、災害に備えていくことが重要であると思います。お一人お一人の準備、工夫、気づきが減災につながると考えています。 以上、私の意見を述べさせていただきました。よろしくお願いいたします。
小林総務課長	ありがとうございました。次は小出委員お願いします。
小出職務代理	以前、どこかのアンケートで北関東での群馬県の幸福度ランキング1位が吉岡町で、かつ住み続けたい街のランキングも1位ということで、非常に素晴らしい結果になってました。これは町長をはじめ皆さんのご努力の賜だろうというふうに思います。そういった環境も背景にして、やはり教育だと思います。 教育というのは子育て全般、より子育てがしやすいまちづくりということで、群馬県の中でも「子育てするなら吉岡町」という感じで、親御さんのサポート、より子育てしやすい支援をやっていければさらに上向いて行くのではないかなというのが1点。 それからもう1点として気になるのは、文化のところで、文化財の保護とか広く町民や町外の方々にも認知して見ていただくということではまだまだで、吉岡町にもいいものがあるのだけど、もうちょっと何とかならないのかなという感じを受けています。その2点が今のところ私の考える課題かなと思います。以上です。
小林総務課長	ありがとうございました。続いて永井室長。
永井教育総務室長	私が考える社会的課題ですが、教育総務室は学校給食センターも担当してまして、食の安全、また環境（ごみの問題）ということもあります。食べられる量を食べられるだけ購入して消費する、なるべくごみを出さない。またごみとして出たものをリサイ

	クルできるような環境ということも考えておるところです。 これは家庭でもできることの工夫として、給食センターは野菜の切り方でごみを出さずに食べられるところまで切る、また食べ残しについても、できるだけ水を切って捨てることによって、環境への影響も配慮できると考えております。残ったものを、堆肥化することも考えてはいるのですが、吉岡町の規模ですと、コストがかかってしまう。また機械導入や業者に委託するとなると、やはりコストがかかってしまうところが懸念されます。今のところはしっかり水を切って、燃えるごみに出している現状です。 できるだけ給食を残さず食べてもらうように、児童生徒へ食育として給食だよりを発行したり、給食時間に放送を流したりして食への関心を持って食べてもらうということを一番に考えながら、ごみ問題、食べ残しをなるべく少なくしていこうというところを取り組み課題に考えております。以上です。
小林総務課長	はい。では続きまして石田委員。
石田委員	私は上野原地区に住んでいますが、地震や豪雨で土砂災害等が起きてるところは、上野原地区と同じような勾配環境といったところであると思われます。上野原地区でも避難訓練等多く実施しているのですが、なかなか全員の人に参加するまでは行っていない状態、それをいかに参加してもらえるか工夫が必要かなと思います。 また吉岡町でも、高齢者、独居家庭もあると思います。その人たちが家に閉じこもらず、いろいろな行事等に参加できるような工夫があればいいかなと思っております。簡単ですけども、以上です。
小林総務課長	はい。ありがとうございます。では教育長、お願いします。
山口教育長	私が考えるその社会的課題の１３の中にはないのですが、全部共通にすることとして、吉岡町の人口増加、いろいろな人が入って交流がある、人の出入りがあるということを見ると「ゆるい繋がり」をどうやって作っていくか、今課題として何とかしなくてはということで、自治会の努力、老人会の努力といろいろな団体が努力をしてるのだけれども、なかなかそこに入っていけない人もいますので、いかにゆるい繋がりを作るかで、そのゆるい繋がりを使っていろいろな課題を解決していけるようにしていくのが吉岡町の今の大事な視点かなと考えます。
小林総務課長	ありがとうございます。それでは八高委員お願いします。
八高委員	私は保護者なので、教育と考えているのですが、先ほど教育長もおっしゃられた「繋がり」ということで、まず親の働き過ぎが私の中で結局全部関連してくるのではと考えます。 ④経済では、所得格差とかが生まれているから、子育てとか育児がすごく大変になっていて、例えば１回の旗振り当番やパトロールの参加も難しく、PTAや育成会などの繋がりも希薄になっていて、それによって廣橋室長がおっしゃられた地域の繋がりがあるからこその安全が、すごく危うくなっていると思っています。

	それによって子育てが孤立してしまい SNS などに答えを求めてしまうけれども、そこには絶対正解はなくてもっとリアルで繋がって、本当に同じ思いを持っている方達が少しずつ繋がっていったらいいと思います。忙しいからこそ、どうしても手早く買えて食べさせられるものということで、子供たちにとって良い食べ物、食の安全が供給できていないというのも見えつつあります。 ゆるい繋がりというか、顔を合わせて、こういう人たちがお母さんと一緒にやってるんだという環境がもっとあったらいいのには思っています。
小林総務課長	ありがとうございます。続いて、米沢局長お願いします。
米沢事務局長	人口です。吉岡町は人口が増えているレアなまちということで、国の方向とは真逆の方針を示さなければいけない。学校や子育てでいえばクラス数が足りない、保育園や学童クラブの待機児童の関係など様々な問題があると思います。 また人口が増えても高齢化率は群馬県でも下から2・3番目ぐらいかと思うのですが、高齢化の方でも、高齢者虐待であるとか老老介護や認知症同士の人が介護する認知介護などがあります。 子供の虐待といった問題もありますが、最近はヤングケアラーの問題など様々な新しい問題が吉岡町でも生まれ出てきます。そういう課題があってそれを行政側とすれば、いかにケアできるかというところが非常に大事というか、そこは課題でもあると考えております。以上です。
小林総務課長	今回の吉岡町における地域社会や社会的課題につきましては、町長にお答えいただくのはいろいろ難しいかと思しますので、町長には振りません。よろしくをお願いします。 では最後に篠原室長からお願いいたします。
篠原学校教育室長	皆さんのお話聞いて、みんな課題かなと思いました。私が考えていたのは最初、まちづくりと教育の関連を考えて教育長が言った「繋がり」という言葉、そこがやはり新しく吉岡町にたくさんの方が入ってきて、新しいお子さんも入ってきて、お話を聞くと「吉岡町はとってもいい、学校もとても温かい」と言ってくれます。すごくありがたいのと、その地域とどう関わっていくか、「自分がこれから長い間住んでいくまち」として繋がっていかれるかという場所、対話なのか、そういうコミュニティがもっと学校単位であるといいかなというふうに私は感じました。
小林総務課長	はい。今挙げていただいただけでも本当に多岐に渡って、これだけの課題が出てくるとするのは、正直普通のことだと思っています。 この社会的課題を教育委員会サイドから見た場合、実は社会教育の中にこの社会的課題の解決のための仕組みがあります。教育基本法第12条に「個人の要望や社会の要請にこたえ、社会において行われる教育は、国及び地方公共団体によって奨励されなければならない」とされております。この内容につきまして社会教

育は、その活動を通じて、住民の地域に対する愛着と誇りを育み、地域の担い手である住民を育てるとともに、地域の魅力に磨きをかけて、地域コミュニティの持続的発展の礎となる重要な役割を担っていると一般的に捉えられております。

また社会教育については、地域住民が他者との関係において楽しく日常生活を送ることができ、そして地域課題を解決しよりよい社会を作り、そこに自らが位置づけられているという肯定感を得る上でも大事だというふうにされております。そういう関係性をもって、この地域が抱える社会的課題というものについて、この社会教育の観点から課題を解決するための講座が持てる仕組みができています。

例を挙げながらお話をさせていただきます。

一般的に社会教育の世界では、なぜ学ぶのかという必要性の根拠について、自分が勉強したいのか、或いは社会からの要請で動きたいのかという2つの視点があります。「個人の要望」というのは具体的に言うと、趣味的な活動が上手くなりたいとか、或いは生きがいを持ちたいとか、或いは職業上必要な知識を得たいとか、そういうものが個人の要望に分類されます。また「社会の要請」というのは、地域住民としての責任を果たす上で、社会的に必要とされ求められているもの、また行政として地域住民の求めに応じていくべき課題、或いは地域で解決しなければいけない課題などが挙げられます。

ここでは、広島県の生涯学習の学習プログラムを作るときに使った資料で簡単に説明させていただきます。これは広島県にも了解を取っております。

まず学習課題の目的設定ということですが、例えば、『近所の川で親子で川遊びや魚釣りをしたい』という「個人の要望」、また「社会の要請」としては、『地域資源を生かした市民協働のまちづくりを進めたいという意見』で、それぞれ要望要請があるという場合にこれらを組み合わせた地域課題というのは、『地域の中心となって流れている〇〇川が汚れているということを踏まえ、「地域住民が川を取り巻く環境問題について自分たちの生活に関連付けて生活していない」』これが課題ではないかとなります。ここを社会教育的な観点から解決できないだろうかということが今回テーマとなります。

学習目的を『かつて地域資源であった綺麗な川を取り戻すために、地域住民が一体となり「川を綺麗にする」といった気運を高め、ネットワークの構築を図る』とし、生涯学習の観点から次に学習目標を設定し、この学習目標を達成するために何をすればいいのか、ということがこの社会教育的な観点となります。

知らないことを知るようになることが「知識」、できないことができるようになることが「技能」、そして「意識」が変わること。この3つを頭に置いて学習プログラムを作っていくのが、社会教育的な観点からの動き方となります。

一般的に社会教育についてはこのように、どういうふうに変えていくか、変えるためには何をすればいいのかということを考えていく必要があるのですが、これをこれから皆さんに議論していただきます。

町としまして、ごみの減量化や再資源化を進めているところですが、実際の令和4年度の吉岡町のごみのリサイクル率は6.4%、群馬県の35市町村中34位ということで、下から2番目となっています。吉岡町としましてこれを問題視しておりまして、令和5年12月に吉岡町のゼロカーボンシティ宣言や今年度から渋川市、吉岡町、榛東村の3市町村同時にプラスチックの分別回収を開始しております。その他にも吉岡町では、資源ごみの回収の事業補助金、或いは生ごみ処理機の購入補助金、そしてその他にパソコンや小型家電等の回収やその委託、資源ごみのストック事業、それから不用品のリサイクルシステムを持ってる会社を通じたりユース事業、あとは食品ロスを減らすための啓発などの取り組みを行っているのですが、町でもそう一朝一夕に劇的に改善するような問題ではないと考えています。

ついてはこの場を活用しまして、本日はごみの問題、またごみの減量化やリサイクル促進といったものについて議論をいただきたいと思います。具体的には地域課題を「ごみの問題」と設定させていただきまして、次に学習目的は、「町民がそれぞれの立場からできることを行い、最終的にごみの排出量を減らし、併せてそれに係る町の費用も削減し、住みよい町づくりを進める。」と設定いたしまして、この学習目的を叶えるために、吉岡町として社会教育としてどんな取り組みができるか、どんなことをすればこれに近づいていけるかというものをこれから皆さんに意見交換をしていただきたいと思います。

それではここからグループワークを行います。2つのグループに分かれて、例えば先ほどゴミから水気を切るという取り組みを社会教育として、何ができるんだろうという観点から意見交換していただきたいと思います。

20分程度でグループごとに意見交換をしていただければと思います。そしてその意見交換後に、発表者にこんな意見が出ましたというのを、また元の席に戻りまして、発表していただければと思います。よろしくお願いします。

各グループで意見交換

小林総務課長	それでは、元の席に戻っていただき、発表者は2・3分時間をとりますので、まとめてください。それまでフリートークで。
小出職務代理	先ほどのごみがワーストツーというのは、プラスチック何の話でしたか。
米沢事務局長	リサイクル率です。
山口教育長	お店で集めているのは、町のリサイクル率に反映されないそう

	です。
高田副町長	排出量はむしろ少ない方ですね。
小出職務代理	リサイクル率が低いとのいうのは、どういうことなのでしょう か。
一倉住民課長	商業店舗などに段ボールの回収場がありますけど、そういうの は町のリサイクル率に反映されません。
山口教育長	どのように計算してリサイクル率を出すのですか。
黒岩住民環境 室長	渋川広域に搬入しているペットボトル、ビン、缶、育成会や自 治会で行っている資源回収が分子です。 分母の方は吉岡町の中で出てくる一般家庭ごみの量（事業所は 含まない）です。
小林総務課長	清掃車が集めるごみの量とプラス清掃センターに運び入ってい る量です。
一倉住民課長	店に直接段ボールとか出すのは、ノーカウントとなります。
米沢事務局長	ということは、吉岡町はかなり不利ですね。
小出職務代理	それはリサイクル率という面では不利けれども、例えばペッ トボトルを大量に町で収集して持っていくのに比べて、他のとこ ろで出してもらえば、収集する量が減るからコストが減るとい うことにはならないのですか。
小林総務課長	なるのですが、やはり一般的にリサイクル率という数字が独り 歩きしてしまうのでなかなか厳しい。あとは市町村によってリサ イクルに向いたものが多いところというのがあったりして。
黒岩住民環境 室長	圧倒的にリサイクル率が高いところは、生ゴミリサイクル事業 を直接持ってて、燃料化するとかですね。そういう施設を持っ てるところが大きいです。
小出職務代理	その施設というのは、行政単位でないといけないのですか。
黒岩住民環境 室長	みなかみ町辺りは、民間のところに出してるところもありま す。ただそこまで運ぶとなると相当運搬コストもかかってきま すので、近くにあるところは有利かなと思います。
小林総務課長	そろそろよろしいでしょうか。時間になりますので、また再開 します。 それぞれグループの意見交換でこんな意見が出てきましたとい うのを発表していただければと思います。永井室長から願いま す。
永井教育総務 室長	はい。私のグループでは、「知識」として先ほど小林総務課長 が説明してくれたごみのリサイクル率ワースト2という現状を知 らなかったというところがありました。そういったところを町と して、現状をデータ化して知らせるということが必要ではない か。学校では授業でごみ処理の流れの学習はしているけれども、 町の具体的なデータで教えるということも必要ではないか。また ごみが家庭から出て処分されるまで、どんな流れでできているの かというところを映像で知らせるのも、いいのではないかとい うところが出てきました。 「技能」として、ごみを企業でもリサイクルしているという

	ころを活用し、講座でそういった現状について映像を見てお知らせするという学習プログラムを組み込んでみてはどうか。高齢者など移動手段がなく参加できない人もいるので、地域への出前講座をしてみてもどうかともありました。 あとは、自分たちの家庭のごみの量を知って、プラごみをリサイクルに出したり、トレーをスーパーに出したりしたらごみの量がどれだけ減ったという達成感でやっている意識も変わってくるのではとの意見も出ました。 「意識」のところなのですが、この町全体で出たごみの量の月ごとの排出量をお知らせして見える化すれば、自分たちがこういった工夫をしたことで目に見えてきて、意識が変わるのではないかな。また先ほどの幸福度ランキングにつなげていくために、ごみのデメリットではなくメリット、ごみが無くなればこの綺麗なまちづくりというところを目指すという意識に反映していくというような意見でした。
小林総務課長	はい。それでは金子主事お願いします。
金子社会教育主事	いろいろな意見を出していただいたのですが、講座的な流れとして挙げた意見は2つになります。まず1つ目が「知識と」して、ごみ処理場や実際にどれだけコストがかかっているというのを知らない方が多いので、それを可視化して、まずは知っていただく。次にここはちょっとまだ具体的な意見までは出なかったのですが、ごみを減らすための調査。まず前提としてごみを減らすために参加してくださる方を募集して、ごみ処理場の見学など情報を可視化したものをまず知っていただくと、講座を通してゴミをどうしたら減らせるのかというのをこの「技術」のところで学んでいただいて、実際に学ぶ前と後で、どれだけごみが減りましたというところを、最終的に発信していくというところで「意識」を変えていくのが大切じゃないかという意見です。 2つ目が子供向けに夏休みリサイクルの講座を開いて、不要になったものを用いて何か作品を作ってもらおうという講座を開いて、それを夏休み明けに学校の課題とかで持っていってもらい、子供たちの間でのリサイクルについて、知ってもらい触れてもらう機会を作る。そして、誰々ちゃんはこんな作品作ってたよとか、こういうものから作っている子がいたよというのを家庭に持ち帰ってもらって、それを社会教育から家庭教育につなげて、循環をさせていくというのが大切ではないかという意見が出ました。以上となります。
小林総務課長	はい、ありがとうございました。2つのグループに分かれていただいてそれぞれいろいろな意見が出てきたと思います。 技術的なところとして、まずは今の状況を知らない。その知らないことを、まず住民に伝えていくという取り組み。またそれをする町がどうなるかというのもイメージさせながら伝えていく。そのためには、映像化であったり、学習講座だったりということが考えられますよということ。

そしてその学習プログラムの際にはそういったものを実際に学習したいという方々を募集してその方々にまずは、ごみ処理場とか今どういうふうに流れているのかというのを勉強していただいたうえで、どうすればごみの減量化が進んでいくのか、そういったことを理解してもらおうというところから始めてはどうかというご意見。そしてそれをする中で、学ぶ前後で実際にやってその達成感的なものもその学習の中で伝えていけるんじゃないか。それが継続的な取り組みに繋がっていく、そういった部分は本当に重要なというふうに思います。

また子供向けのリサイクル講座という部分で不用品の活用とか、そういったものを使った作品、それを家庭教育に結びつけていく。そういったことが大事じゃないか。本当にそう思います。

皆さんに今回こういった形で協議をしていただきました。社会教育的な見地から何ができるかというのは、なかなか考える視点を変えて、その議論課題を見るのはなかなか難しいのだろうなというふうに自分も初めての感覚でした。

ただ、こういった議論というのは、これから大きく必要とされる部分だと思います。今回、地域住民の方にどんな知識・技能・意識を身につけていただいて欲しいのか、そしてそれをどういうふうに実際に身につけさせる方法を考えていくのかという部分について議論していただいたわけなのですが、本日の意見交換は全部材料となっていくと思います。

近年ですね、社会教育の世界では、こんなことを言われています。問題というのはより高度で複雑化していくのだと思うんですが、その中で住民が住みよい社会づくりを進めるためには、行政だけではなく、企業とか大学だったり、団体だったり個人だったり、様々な主体がそれぞれの立場から、この問題を考えていく、そしてそれに取り組んでいくというのが大事になると。

特に地域においては、行政はサービスの提供者、住民はサービスを受ける側という役割分担からはではなく、住民自らができることをやっていくというのは、地域づくりのために非常に有効ではないかということが言われております。こういったことを今回皆さんにも体験していただいた形になりましたが、今後はこういった地域課題を町行政、そして教育委員会サイド、お互いに意見交換をしながら協議をしていく、そういった場がこれからいくつかが発生していくこともありますので、そういった経験をぜひ今後の教育委員会の活動にいかしていただければと思います。

以上でこの総合教育会議の意見交換の方は終了とさせていただきます。ありがとうございました。それでは議事を柴崎町長にお返しさせていただきますと思います。よろしくお願いいたします。

柴崎町長

はい。ご苦勞様でした。皆様には地域課題の解決方法について、社会教育的な観点から、活発な意見交換をしていただきありがとうございました。最初に皆様から吉岡町が抱える地域課題に

について挙げていただきましたが、住み続けたい、住んでよかったと評価されるまちであっても、実際のところ改善すべき点は数多くあると思います。町としてそれらの課題の解決に向け、様々な施策により対応しているところでありますけども、そのためには多くの予算やスタッフが継続的に必要となる上、その施策により課題が劇的に改善されるわけではありません。

本日は皆様に吉岡町の地域課題、具体的にはごみ問題の解決方法について、社会教育の観点から、地域住民の皆様にとどのような知識、技能、意識を身につけて欲しいのかをそしてそのための学習プログラムの作成について意見交換をしていただきました。

平成30年12月に中央教育審議会から文部科学省に答申された社会教育の振興方策について、書かれている文書には、地方公共団体において多様化高度化する地域課題に対応するためには、首長部局と教育委員会が縦割りを廃止し、相互に強みを生かしながら密接に連携し、総合的な視点で取り組む必要があり、例えば社会教育主事が地域づくりをテーマに、首長部局の職員をも対象とした研修を企画するなど、地域の様々な課題に取り組む担当者間の交流を推進することも考えられると記載があります。

また私個人的なんですけれども、役場の職員にもぜひ地域課題に関心を持っていただきたいと思い、自分は地域に飛び出す公務員を応援する全国首長会に加入させていただいております。町外者の多い役場職員ですけども、町の住民の1人として一緒に社会教育、地域コミュニティの面から課題解決に1歩踏み出して欲しいと願うものであります。今後多様化高度化する地域社会に対応するため、吉岡町でも行政側からのアプローチは行っていますが、それと同時に地域住民が果たす役割が非常に大きなウエイトを占めることになります。学習によって地域住民にどんな知識、技能、意識をつけて欲しいのか、それが社会を良くするための社会教育的なアプローチとなりますので、今後とも吉岡町をさらによりよいまちにするため、委員皆様のご協力を何卒よろしくお願いいたしまして、挨拶とさせていただきます。

本日これで自分の議長の座を下ろさせていただきます。ありがとうございました。

小林総務課長

委員の皆様におかれましては長時間にわたり、活発な意見交換をいただきましてありがとうございました。以上をもちまして、令和6年第1回総合教育会議を閉会とさせていただきます。